

2025年度 登録建築板金基幹技能者講習試験

(中部ブロック)

1 年月日 2026年3月15日

2 会場 ふれあい会議室 名古屋No.129

3 試験時間 60分

4 問題数 30問(四肢択一式)

5 注意事項

- (1) 係員の指示があるまで、問題を開かないで下さい。
- (2) 解答用紙に、所属組合名・受講番号・氏名を必ず記入して下さい。
- (3) 係員の試験開始の合図で始めて下さい。
- (4) 正解を一つ選択して解答して下さい。二つ以上解答した場合は誤答となります。
- (5) 解答は、必ず解答用紙に○印を記入して下さい。
- (6) 携帯電話は、試験前には必ず電源を切って下さい。
- (7) 質問がある場合は、速やかに挙手して係員の指示に従って下さい。
但し、試験問題の内容や漢字の読み方等に関する質問には、お答えできません。
- (8) 試験終了時刻前に退席する場合(試験開始から30分経過後より可能)は、挙手して係員の指示に従って下さい。
トイレ等の一時的な離席も同様です。

終了の合図があつたら筆記用具を置き、係員の指示に従って下さい。

科目：登録基幹技能者制度の意義と役割

問1	登録基幹技能者に求められる能力で、間違っているものはどれか	
答イ		十分な経験を有し、熟達した作業能力
答ロ		技術の進展等に的確に対応した知識
答ハ		出来上がりの点検、工事の是正ができない
答ニ		現場をまとめ、体系だった効率的な作業を実施するための管理能力

科目：登録基幹技能者制度の意義と役割

問2	OJT教育を行う上で、教育目標を設定するために重要なポイントについて、次の記述のうち誤っているものはどれか。	
答イ		部下が意欲を持って取り組めるものであること。
答ロ		目標は定量的で具体的であること。
答ハ		日常の仕事以外の時間を通じて行う個別の指導であること。
答ニ		目標は設定期間終了時に評価が可能であること。

科目：施工管理と施工計画

問3	建設副産物対策として建設現場の3Rで正しいのはどれか	
答イ		リデュース・リユース・リサイクル
答ロ		レンタル・リユース・リサイクル
答ハ		リデュース・リパース・リサイクル
答ニ		レンタル・リパース・リサイクル

科目： 工程管理

問4	バーチャートの作成手順に関する次の記述のうち、最初におこなうものはどれか。
答イ	全体工期を横軸に示す。
答ロ	全ての作業についての所要作業日数を算定する。
答ハ	全体工事を構成するすべての作業を縦に列記する。
答ニ	工期内に全体工事が完成できるように、計画した各作業の所要工期を図表の上にあてはめて日程を組む。

科目： 原価管理

問5	見積時に確認の必要のないものはどれか。
答イ	敷地の形状。
答ロ	設計図書、施工図。
答ハ	天候。
答ニ	施工範囲。

科目： 原価管理

問6	建設業の4原価要素の科目に含まれないものはどれか。
答イ	材料費
答ロ	販売費
答ハ	労務費
答ニ	外注費

科目： 品質管理

問7	品質に関する説明で誤っているものはどれか。
答イ	設計段階で定められるもの(ねらいの品質)を基準品質という。
答ロ	施工段階で実現するもの(出来ばえの品質)を施工品質という。
答ハ	特定メーカーの製品名を設計図書に特記したり、仮設方法を指定したり、施工方法を指示したりするなどしてつくり方を具体的に細かく定めるものを仕様規定という。
答ニ	詳細な方法を指定しないで、求める品質を明示し、それが満たされていれば良しとするものを性能規定という。

科目： 安全管理

問8	安全管理に関する記述で誤っているものはどれか。
答イ	登録基幹技能者は安全衛生管理体制、各種責任者とその職務、遵守義務などを理解し、元請業者の安全管理を実践面でサポートする必要がある。
答ロ	わが国における建設業の労働災害発生件数をみると、長期的には大幅に減少している。
答ハ	労働安全衛生法は昭和47年に、職場における労働者の安全と健康の確保と、快適な作業環境の形成を目的に定められた日本の法律である。
答ニ	建設業は、他産業と比べ労働災害発生率が低い産業である。

科目： 安全管理

問9	熱中症予防対策の記述として誤っているものはどれか。
答イ	屋外の高湿多湿作業場所では、直射日光並びに周囲の壁面及び地面からの照り返しを遮ることができる簡易な屋根等を設けた。
答ロ	高温多湿作業場所に風が通らないよう措置をした。
答ハ	高温多湿作業場所の近隣に冷房を備えた休憩場所や、日陰等の涼しい休憩場所を設けた。
答ニ	水分及び塩分の補給を定期的に行うことができるよう高温多湿作業場所に飲料水の備え付け等を行なった。

科目： そのほか

問10	建設業法令遵守ガイドラインのうち「不当に低い請負代金」の定義で違反行為とならないものはどれか。
答イ	元請負人が、自ら提示した積算根拠を明らかにして、十分協議を行い、下請契約を締結した。
答ロ	元請負人が、契約を締結しない場合には今後の取引において不利な取扱いをする可能性がある旨を示唆して、下請負人との従来の取引価格を大幅に下回る額で、下請契約を締結した。
答ハ	元請負人が、下請代金の増額に応じることなく、下請負人に対し追加工事を施工させた。
答ニ	元請負人が、契約後に、取り決めた代金を一方的に減額した。

科目： 設計・施工の考え方

問11	設計・施工上の役割の記述として誤っているものはどれか。
答イ	鋼板製屋根・外壁の設計・施工に関わる関係者として、設計者、総合工事業者、専門工事業者及び製品供給業者がある。
答ロ	構造耐力上の検討を含めた設計行為に対する責任は専門工事業者に求められる。
答ハ	専門工事業者や製品供給業者の側も、設計者が屋根や外壁各部の強度検討や安全性確認を円滑に行えるよう、仕様や強度データ等の各種技術情報を積極的に提供することが求められる。
答ニ	不具合が生ずる要因としては施工管理が適切でないことだけでなく、設計者と総合工事業者との間、総合工事業者と専門工事業者との間、専門工事業者と製品供給業者との間でディテールの共有が十分でないことも考えられる。

科目： 設計・施工の流れ

問12	設計時に検討される基本的性能の説明で誤っているものはどれか。
答イ	耐風圧性能 強風時に作用する風圧力に対して、外装材及び接合部に構造耐力上有害な変形、破損又は脱落を生じないこと。
答ロ	耐積雪性能 積雪時に作用する積雪荷重に対して、外装材及び接合部に構造耐力上有害な変形、破損又は脱落を生じないこと。
答ハ	耐震性能 通常の自然条件、使用条件、維持管理条件のもとで、耐用年数内に有害な劣化が起こらないこと。
答ニ	防水性能 通常の風雨条件に対して、室内への雨漏り及び外装材層への有害な浸水を生じないこと。

科目： 設計・施工の流れ

問13	施工計画の際に確認する、各種図書等の説明で誤っているものはどれか。
答イ	現場説明書は、現状の立地条件、敷地や工事範囲等を説明したものである。
答ロ	配置図は、敷地内における建築物の位置、敷地面積、方位、BM(ベンチマーク)、高低、道路、敷地境界線等を表したものである。
答ハ	現場案内図は、現場付近の道路、交通機関、駐車場、方位、地形等を明記したものである。
答ニ	共通仕様書は、外装材の工事において施工条件により適した工法・材料等を用いるため、特殊な箇所の仕様等を明記したものである。

科目： 設計・施工の流れ

問14	工事を進めるに当たり専門工事業者が総合工事業者に対して提出する書類で誤っているものはどれか。
答イ	施工要領書
答ロ	施工図
答ハ	安全衛生関係書類
答ニ	工事完了証明書

科目： 2.2 設計・施工の流れ

問15	成形材の揚重時の確認に関する記述で誤っているものはどれか。
答イ	施工計画や工程表と見合った適切な重機(大きさ、台数)が手配されていることを確認する。
答ロ	重機が設置されてから揚重スペース、人員、吊り治具等を準備し、有資格者(玉掛、重機のオペレーター等)が実際にそろっていることを確認する。
答ハ	決められた人間が的確な合図をしなければならない。
答ニ	作業半径内に作業員や車両が入らないように、必要に応じて安全監視員を要望し、事故防止に努める。

科目：折板屋根の参考構法

問16	折板屋根の軒先の納めについて、次の記述で誤っているものはどれか。
答イ	軒出の寸法は、折板の山高の5倍程度以下にすることが望ましい。
答ロ	軒どい及び堅どいの寸法は、原則として雨量計算の結果によるものとする。
答ハ	軒の外部露出部には、原則として裏張り材を張る。
答ニ	軒先面戸には、必要に応じて防水上有効な措置を施す。

科目：折板屋根の参考構法

問17	折板屋根のけらば納めについて、次の記述で誤っているものはどれか。
答イ	けらばは、端部用タイトフレームによって補強する。
答ロ	けらば包みとして用いる鋼板は、加工性を考慮して折板材よりも薄い鋼板を使用する。
答ハ	けらば包みは、端部用タイトフレーム又は下地金物に留め付ける。
答ニ	けらば包みどうしの重ね部の留め付けは細目ねじ又は耐水リベットによるものとする。

科目：折板屋根の参考構法

問18	折板屋根の各処納めについての記述で誤っているものはどれか。
答イ	水上壁側との取合納めについては、水切の立ち上がり寸法は50mm程度確保する。
答ロ	笠木廻りの納めでは、防水上有効な措置を施す。
答ハ	谷どいは、十分な排水量を確保できる断面とする。
答ニ	ルーフファン廻りは、雨水の吸い込みに留意した納めとする。

科目： 吊り折板屋根の参考構法

問19	吊り折板屋根の納めについて、次の記述のうち誤っているものはどれか。
答イ	折板吊り金具は原則として、一方向に揃えて取り付ける。
答ロ	内どいは、壁側の胴縁と折板から帯鋼で支持する。胴縁は内どいの重量を支持できる寸法とする。
答ハ	軒出寸法は、折板の山高の5倍程度以下にすることが望ましい。
答ニ	折板を梁上に施工する場合は、ガセット廻りに止水上有効な処理を施す。

科目： 立平ぶき屋根の参考構法

問20	下ぶき材の敷き込みについて誤っているものはどれか
答イ	野地板は曲がりや隙間がないように取り付ける
答ロ	野地板は墨出しを母屋上面に適宜に行い、墨出し線に添って曲がりなく張る
答ハ	野地板を仮り留め程度の留め付けで敷き込む場合は、ふき材を直接母屋にねじ留めする必要はない
答ニ	ふき材を野地板に直接留め付ける場合は、野地板を構造耐力上有効なものとするとともに母屋に確実に留め付ける

科目： 立平ぶき屋根の参考構法

問21	下ぶきの工法(重ね)について誤っているものはどれか。
答イ	軒先と平行に敷き込み、軒先から上に向かって張る。上下流れ方向は100mm以上、左右長手方向は200mm以上重ねる。
答ロ	棟部は、下葺材を250mm以上の左右折掛けとしたのち、棟頂部から一枚もので左右300mm以上の増し張りを行う。
答ハ	谷部は、一枚もので左右300mm以上の下葺材を先張りし、その上に下葺材を左右に重ね合わせ、谷底から250mm以上延ばす。谷底は、ステーブルによる仮止めは行わない。
答ニ	壁面との取合い部は壁面に沿って250mm以上、かつ、雨押さえ水切上端部より10mm以上立ち上げる。

科目： 立平ぶき屋根の参考構法

問22	下ぶきの工法について誤っているものはどれか。
答イ	屋根の軒及びけらばの壁当たり箇所は、下葺材をあらかじめ屋根下地材と壁の間に先張りする。
答ロ	先張りした下葺材に重ねる下葺材の重ね順は、水下から水上へ張り上げる。
答ハ	軒先は水切り金物の上に重ね、両面粘着防水テープで密着させる。
答ニ	改質アスファルトルーフィング下葺材(粘着層付タイプ)を使用する場合は、しわ又はたるみがあっても良い。

科目： 横ぶき屋根の参考構法

問23	横ぶきの取り扱いについて誤っているものはどれか。
答イ	ふき材の継手は製品供給業者が指定する方法でなくても良い。
答ロ	ふき材の継手の位置が同一箇所になると漏水の原因となりやすい。
答ハ	ふき材の割付は階段状にふく「ふき廻し」と市松模様にあく「千鳥ぶき」がある。
答ニ	屋根の仕様に応じた割付とする。

科目： 外壁の参考構法

問24	外壁の下地に関する以下の解説のうち誤っているものはどれか。
答イ	外壁材や構成部品はドリルねじ等を用いて下地となる胴縁に接合され、外壁材に作用する荷重・外力が接合部を介して下地に伝達されるため、下地の適切な仕様選択が重要となる。
答ロ	断熱や防耐火等の各種要求性能を満たすためボード類を付加することもあるが、その場合は取り付けに支障をきたさない下地の強度、剛性及び寸法が求められる。
答ハ	腐食や腐朽に対する耐久性向上のため、表面に防錆塗装を施すか亜鉛めっきをすることが必要である。
答ニ	鋼製胴縁の断面寸法は、構造計算によって所定の強度および剛性を有するものを選ぶ必要があるが、その厚さはドリルねじを用いて外壁材を留め付けるため4.3～5.2mmにする必要がある。

科目： 外壁の参考構法

問25	堅どい取り付け部に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。
答イ	鉄管等を用いた大きな堅どいは、構造骨組(鉄骨柱)から溶接で支持される。
答ロ	一般的な堅どいは外壁材を留め付ける胴縁を利用してねじ留め、もしくは溶接にて取り付けられる。
答ハ	外壁材が縦張りの場合、堅どいは下部に設けられる雨水桷の位置に合わせて横胴縁を利用して取り付けられる。
答ニ	外壁材が横張りの場合、横胴縁の位置と雨水桷の位置が異なることが多いので、その場合は所定の位置に堅どい専用の下地を配置しておく必要がある。

科目： 外壁の参考構法

問26	土台水切の納めについて誤っているものはどれか。
答イ	土台水切は十分な立上り寸法を設けるとともに通り良く取付ける。
答ロ	下地ボードを設ける場合、ボード端部の漏れを防止するために腰壁部分から少し上げる。
答ハ	外壁の防水紙は土台水切の下に取付ける
答ニ	水切どうしの継手は概ね60～100mm程度重ね、重ね内部にはシーリングを施す。

科目： 外壁の参考構法

問27	建具廻りの納めに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。
答イ	建具の上枠では、雨水の吹き上がりを低減するために外壁材の外側にケミカル面戸を設け、状況に応じて水切りを併設することが望ましい。
答ロ	建具の上隈部分には横走りした雨水が縦枠に流れ込まないように、外壁材と建具に適切なシーリングを施す。
答ハ	浸入した雨水が継手部や土台部分より外部へ排水できるような構造にする。
答ニ	防水紙面と建具枠で止水ラインを形成する。

科目： 維持保全

問28	維持保全に関する用語の説明で誤っているものはどれか。
答イ	日常点検 ＝ 対象物が日常運用されているときに可能な点検。
答ロ	定期点検 ＝ 周期を定めず対象物を休止させたりして行う点検。
答ハ	保守 ＝ 消耗部品の取り替えや汚れの除去等、対象物の機能の維持と耐久性確保のために行う作業。
答ニ	修繕 ＝ 劣化又は陳腐化した部材・部品等の機能・性能・外観を現状あるいは実用上支障のない状態まで回復させること。

科目： 改修

問29	屋根の改修工事で、設計・見積り時の調査対象として、次の記述のうち誤っているものはどれか。
答イ	屋根の状態
答ロ	母屋の状態
答ハ	下地の状態
答ニ	基礎の状態

科目： 改修

問30	石綿障害予防規則では、スレート屋根の改修は石綿含有成形板の改修・解体工事として、作業区分「レベル3」に相当する対策を取ることが求められている。主要要点の説明として誤っているものはどれか。
答イ	石綿作業主任者の選任と作業者への特別教育を実施する。
答ロ	レベル3対応の防じんマスクや通勤等とは別の作業衣を着用する。
答ハ	既存スレートの切断等を行う場合は、乾燥化その他石綿粉じんの飛散防止対策を行う。
答ニ	廃スレートは専門業者に委託し、産業廃棄物として安定型最終処分場で処理する。